

檜尾川砂防ダム3

この25年ほど高槻で環境公害問題の勉強会や、まちづくり、行政のあり方、あるいは情報公開についての市民運動をやってまいりました。また、1975年から83年まで高槻の市会議員、83年から87年までは大阪府会議員をしておりました。この砂防ダムについて地元からの合同陳情を私は大阪府庁で受けました。そのときに、いわゆる砂防ダムという具体的な話は全くございませんでした。ただ、ここは砂防地域なので、この対策を何か考えてほしいというようなレベルの話でありました。

ところが、全く知らないうちに85年に、砂防ダムという話がいつの間にか固まっていて、そして、それが放置されていて、ついこの間突然浮上してきたというのが私の正直な実感であります。

もし本当に、いまOHPで示している大阪府が配布したピラの中に書いてありますような大変な被害が出てきますよというのなら、なぜ財政的にもっと潤沢なときにこのことをやらなかったのか。それを放置しておいて、財政的にまことに窮迫した今になって、なぜわざわざこんな話をしなければならないのか。

注目していただきたいのは、このピラが配布されたのは99年3月28日であります。統一地方選挙の知事選の投票日であり、また高槻の中でもさまざまに論議があり、地元の議員などによっては、我々を敵視して、とにかくこういうことをじゃまするやつがいるというふうに言っているのですが、このピラの第2弾が出たのが99年4月25日であります。

25日というのは、ご存知のとおり、統一地方選挙の市会議員の選挙の投票日であります。投票日にピラを配布するようなことを行政がやるんでしょうか。一体何を考えて大阪府はやったのかというふうにあえて言いたいと思います。が、そこは今日の論議ではありませんので……。

まず、この予定地に砂防ダムを置かないと、このような洪水が起きますよ、あるいはすごい土石流災害が発生するということですが、檜尾川というのは、何もここだけが流れではありません。ここだけを止めることによって、どうして土石流災害や洪水が止められるんですか。

これだけのものすごいことが出てくるとなると、ここには東海道新幹線が走っているんです。ここには阪急電車が走っているんです。JRが走っているんです。国道171号線が走っているんです。幹線道路・幹線交通機関が全部集中しているんですよ。既にここについては河川改修は終了済みではありませんか。災害が起きると言うんなら、これまでの河川改修について間違いだということを言っているわけではありませんか。

もし大阪府がここに砂防ダムをつくることによって、災害が止まるというなら、具体的に数字を出して言ってくださいよ。起きませんよ、こんなことは。

台風13号による洪水についてですが、小学校3年のときですから、記憶にはっきり残っておりますけれども、淀川本川があれだけの状態になったのであって、もし、檜尾川の水がいっぱいになったから、この洪水になったとおっしゃるのなら、具体的なデータを出してみてください。

それから、今こういう問題が起こるとしても、基本的には、この河川改修については、淀川の本川の改修によってここはもう規定されているではありませんか。皆さんの前提が崩れるということは申し上げたいと思うわけです。

自分たちが砂防ダムを建設するのに都合のいい、勝手なピラを出していますが、このピ

ラのようなことは起こるんですか、下流で。起こるのなら、今すごい住宅街が建っている、これを、仮に1983年としましょう、83年からなぜきょうまでこれを放置してきたんですか、宅地開発を。また、天井川そのものを放置しておいて、なぜそんなことが言えるんですか。こんなことは、ここでは起きませんよ。ここは山地ですから。本当に起きるのなら、もっとやらなければならないことがあるはずじゃありませんか。

現実に私は茨木市の山間部につくられた砂防ダムを見に行ってきました。環境にやさしい木組みのやつです。これであなた方が想定するような土石流が止まるんですか。岩石がごろごろ来るようなものがこの間伐材を使ったやつで止まるんですか。まずもってそういうばかばかしい論議はやめていただきたいと思うんです。

ここは、先ほども写真で示しましたように、自然景観それ自体がまことにすばらしいところなんです。これが雨が降ってないときの状態です。これを見てください。この状態でどこに岩石が、土砂堆積があるんですか。ないじゃないですか。先ほど意見を言った方と一緒に、大雨の最中に行きましたよ。それであの状態ですよ。

じゃ、なぜこんなことになってきたか。それは、山をきっちりケアせずに、こんなふうには建築廃材やそんなものをほったらかしてあったり、また車が何台も放ってあったり、崩れたまま放っているから、本来の自然が持っている力を弱めているというのが現実ではありませんか。そのことをまずきっちりお互い考えていきたいと思うんです。

これは大阪府が出している都市計画道路現況図です。ここに第2名神高速道路の予定地がずっと走っています。これがこの砂防ダムの、この上のところでトンネルの部分が表に出てくるところです。ちょうどその谷間のところに檜尾川の源流めいたものがあって、そのところをどうするかという問題になっているんです。

もしあなた方がここで土石流災害が発生するというのなら、そもそも第2名神高速道路は建設できませんよ。表に出てくるところは危なくて、通ってられませんよ。それをどうするのかという問題です。

それから、ここに大阪府道牧野高槻線という予定地があります。砂防ダム建設予定地につながっていくんです。みんなが警戒しているのは、このためにわざわざやっているんじゃないか。砂防ダムだなんだかんだと言いながら、結局は第2名神や牧野高槻線の工事のための道路をつくり、それを既成事実としてしまうんじゃないか、そういう危険を私たちは感じているし、また地元の人たちも感じているわけす。

この道路はまことに歴史的な道で、牛街道と呼ばれてきました。ここに「京」という字が見えておりますように、西国街道のもう一本山側の亀岡や茨木へ行く道なんです。見ていただいたらおわかりのとおり、もともと豊かな自然の状態の中で、ずっと続いてきている道なんです。このことをきっちり守っていく、里山として守っていくならば、本来自然が持っている力で、いくらでも災害なんかを止めてくれる。何も砂防ダムというような安直なやり方をしなくても、いくらでもできます。あえてこんな形で来るのは、私たちがどうしても疑ってしまうのは、こういうやりたいことがあるからじゃないかというふうに思っていますので、その点きっちりお考えいただきたいと思います。

(追加意見)

檜尾川ダムについて府の言っていることが混乱しているのは、このダムというのは、砂防ダムであるにもかかわらず、いかにも水の量を減らす洪水のためのダムだというふうに言っていることだと思うんです。これは基本的に、砂防ダムは何ぼ言っても砂防ダムなんですから、そのところをきっちりしておかないと話がおかしいと思うんです。

土砂がどれだけ流出しているのか。すごいすごいと言うんだけど、具体的な数字が出ていない。計画の時点でそれがないようなものは根本的におかしいです。なぜじゃあこの規模でつくるかということ自体の根拠がまずないということをやっぱり申し上げたい。

治水対策上重要だとおっしゃるけれども、このダムというのは治水対策というよりも、砂防、土石流を止めるということを中心にして考えているのに、一体何なんだという問題があると思う。

それから、計画最大時間雨量88.5mmというのは、これは私たちはこの後にも見に行きました。そして、上流の方でどれだけ堆積しているかということを実際に見て、決して変わっていないじゃないかということで、あえてわざわざその写真を持ってこなかっただけの話であって、現在でもかつてとそんなに極端にこのときは変わっているかどうかという問題とは全然別です。

それで、88.5mmというすごい数字をお出しになるのなら、これは何も檜尾川本川だけではなく、東檜尾川も、それ以外のところもすべて88.5なんですから、これは大変なものが——淀川本川自体もそれくらい来るわけですから、一体このときに何ができるんだという問題があって、まことに現実性のない話である。

それから、やはりアカウンタビリティというのは非常に大事な問題で、どこかで説明しますとおっしゃるんだけど、地元というのは一体何なんですか、どこなのかということがはっきりしていない。この砂防ダムを要請してきたのは、この流域の下の人よりも、むしろ流域でいくと、芥川の流域の方にいる人たちですから、アカウンタビリティを確保するというのなら、一体地元というのは何なんだということをきっちりしていただきたいと思います。

それから、老朽化による砂防ダムの倒壊は全国的にも事例がありませんと（府が）説明されましたが、そもそも砂防ダムというのは、そういう土石のたまらない所にばかりつくってきたんだという現実なんです。本当に必要な砂防ダムというのは、全国につくられている砂防ダムの中でどれだけあるのかということについてのきっちりした検証抜きに、砂防ダムは老朽化によって潰れませんという言い方は、詭弁と言う以外にない。

それから、斜面なんかには緑化復旧とか、いろんなことをやりますといますが、そういうことでいえば、逆に、最初から自然を活用する形で、土石流対策や治水対策を考える方が、むしろコスト・ベネフィットにかなっている。今の府の財政状況からいえば、プラスになると考えます。もっと冷静に論議をする必要がある。そういうふうに思っております。